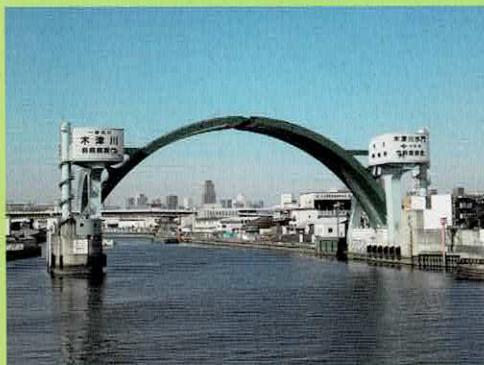


# 大正区の 都市景観資源紹介



# 大正区の都市景観資源

大阪市では、大正区の都市景観資源の発掘のため、大正区まちづくり委員会がまちビジョン部会との連携により「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成24年3月30日に7件を都市景観資源に登録しました。

## 1. 大正区の渡船場の景観



### ◆所在地

大正区泉尾7丁目13番、港区福崎1丁目3番、大正区千島1丁目29番、西成区北津守4丁目15番、大正区平尾1丁目1番、西成区津守2丁目8番、大正区南恩加島1丁目11番、西成区南津守5丁目6番、大正区北恩加島2丁目5番、鶴町4丁目1番、鶴町1丁目16番、船町1丁目3番、船町1丁目1番、住之江区平林北1丁目1番

### ◆概要

大正区は四方を川と海に囲まれた地域であり、橋梁が整備された現在も、渡船は、区民の生活に欠かせない貴重な足としての役割を担っている。市内に8ヶ所ある渡船場のうち7ヶ所は大正区にあり、その景観には、水の都に思いを馳せさせるとともに、深く歴史を感じさせる力がある。

- 甚兵衛渡船場：大正区泉尾1丁目と港区福崎1丁目を結ぶ(岸壁間94メートル)。
- 落合上渡船場：大正区千島1丁目と西成区北津守4丁目を結ぶ(岸壁間100メートル)。
- 落合下渡船場：大正区平尾1丁目と西成区津守2丁目を結ぶ(岸壁間138メートル)。
- 千本松渡船場：大正区南恩加島1丁目と西成区南津守5丁目を結ぶ(岸壁間230メートル)。
- 千歳渡船場：大正区鶴町3丁目と同区北恩加島2丁目を結ぶ(岸壁間371メートル)。
- 船町渡船場：大正区鶴町1丁目と同区船町1丁目を結ぶ(岸壁間75メートル)。
- 木津川渡船場：大正区船町1丁目と住之江区平林北1丁目を結ぶ(岸壁間238メートル)。

## 2. 木津川水門



### ◆所在地

大正区三軒家東3丁目6番

### ◆概要

木津川水門は、造船所などがならぶ木津川にあるアーチ型水門である。台風などで押し寄せてくる大阪湾からの高潮をせき止めることを目的に、昭和45年(1970年)11月に整備された。

アーチ型ゲートの主水門とスイング式ゲートの副水門からなっており、主水門の径間は57m、副水門の径間は15mである。ともに緑色で彩られ象徴的な景観を呈している。

## 3. 千島公園(昭和山)



### ◆所在地

大正区千島2丁目7番

### ◆概要

千島公園は、昭和51年(1976年)4月に開園された約11.2haの区を代表する総合公園である。

千島公園内にある昭和山は、江戸時代に造られた天保山を模して昭和に造られた人工の山である。クスノキやケヤキなどが茂り、ツツジ、ヤマブキ、クチナシ、アセビが花を咲かせる大正区のシンボルとなっている。

## 4. 大正内港のはしけ棧橋



### ◆所在地

大正区千島3丁目24番

### ◆概要

大正中期から昭和初期、千島新田と泉尾新田一帯に、運河・貯木場・水路の開削と道路・橋梁・宅地盛土などの開発工事が実施され、材木業者が誘致された。昭和7、8年(1932、1933年)頃には業者数約600戸の木材街が出現し、その木材市場は業界の一大中心地となった。昭和50年(1975年)に現在の原型となる「大正内港はしけ棧橋」が整備され、わずかにその面影をとどめている。貯木場の移転後に整備され多くの船舶が係留されている棧橋の姿は、港らしい景観を作り出している。

昭和50年(1975年)に現在の原型となる「大正内港はしけ棧橋」が整備され、わずかにその面影をとどめている。貯木場の移転後に整備され多くの船舶が係留されている棧橋の姿は、港らしい景観を作り出している。

## 5. 千本松大橋と千本松渡船場



### ◆所在地

大正区南恩加島1丁目11番、  
西成区南津守5丁目4番

### ◆概要

千本松渡船は大正区南恩加島1丁目と西成区南津守5丁目を結ぶ(岸壁間230メートル)。千本松の渡しが設けられた年代ははっきりしないが、大正時代の中頃に初めて設けられたものと思われる。現在も通勤通学の貴重な交通手段として利用されている。

昭和48年(1973年)、この岸壁間に千本松大橋が完成した。地元では「めがね橋」の愛称で呼ばれている。橋下を大型船舶が航行できるように桁下高を33m確保し、両端部の2階式ラセン状ランプウェイを含めた橋長は1,228mにおよぶ。

## 6. 千歳橋と千歳渡船場



### ◆所在地

大正区北恩加島2丁目5番、  
鶴町4丁目1番

### ◆概要

千歳渡船は大正区鶴町4丁目と同区北恩加島2丁目を結んでいる(岸壁間371m)。鶴町側からは、多くの船が浮かぶ大正内港のかなたに、昭和山(標高33m)や千島団地等が眺められ、尻無川の広々とした河口風景ともあいまって、ウオーターフロントの美しい景観となっている。

平成15年4月には、この渡しの上に橋長365m、海面からの高さ28mの千歳橋が完成し大正区の新たなランドマークとなっている。

## 7. 新木津川大橋と木津川渡船場



### ◆所在地

大正区船町1丁目1番、住之江区平林北1丁目1番

### ◆概要

木津川渡船は大正区船町1丁目と住之江区平林北1丁目を結んでいる(岸壁間238m)。昭和30年からカーフェリーを運航し乗用車から大型トラックまで運搬し得る能力を持っていたが、上流部に千本松大橋が開通し、今は人と自転車のみを運ぶ渡船となっている。

新木津川大橋は、木津川の河口に位置している大正区と住之江区とを結ぶ橋で、河川内の航路(幅150m、高さ46m)確保のため、橋の全長は2.4kmに及んでいる。本橋は川を渡る主橋(長さ495m 幅員11.25m)と両岸のアプローチ橋で構成され、主橋の形式は経済性と施工性に加えて景観面も考慮して中路式バランスドーアーチ型を採用している。現在、この形式の橋としては日本最大級であり、大阪港を代表する橋の一つである。本橋は平成6年の土木学会田中賞を受賞している。

# 大正区の都市景観資源(分布図)



## ■ 都市景観資源とは…

地域のみなさんに親しまれ、地域の景観を特徴づけている建造物、橋梁、樹木などの資源を、大阪市都市景観条例に基づき登録するものです。広く市民のみなさんに知ってもらい、地域の景観に関心を持ってもらうことにより、地域の特性を生かした景観づくりを進めていこうとするものです。

## ■ 大阪市都市景観条例(平成10年大阪市条例第50号)

大阪市域の景観の向上及び地域の特性を生かした都市景観の形成を目的として、その実現に向けて必要な基本事項を定めた条例です。市民や事業者のみなさんに都市景観への関心をより高めていただき、魅力的な都市景観をつくっていくことをめざしています。

## 都市景観資源紹介HP

<http://www.city.osaka.lg.jp/keikakuchosei/category/893-30-9-0-0.html>

## 大正区HP

<http://www.city.osaka.lg.jp/taisho/>



大正区のマスコットキャラクター  
ツージィ

お問い合わせ先 大阪市計画調整局 開発調整部 開発誘導課(都市景観)  
 〒530-8201 大阪市北区中之島1-3-20(市庁舎7階)  
 電話06(6208)7885